

令和 5 年度(第 19 回)若手農林水産研究者表彰受賞者の業績概要

【農林水産技術会議会長賞】

受賞者	業績名	所属
いまむら 今村 直広	森林における放射性セシウムの初期動態に関する研究	国立研究開発法人 森林研究・整備機 構 森林総合研究所 北海道支所
<p>福島第一原子力発電所事故発生から 5 年間にわたる森林内の放射性セシウムの動態を明らかにした。さらに、森林内の樹木や土壌の放射性セシウム量から空間線量率を推定するモデルを開発し、落葉層の空間線量率への寄与はわずかであることを明らかにした。これら成果は、奥山での森林除染の政策判断に活用された。</p>		
かつみ 勝見 尚也	被覆肥料に由来するマイクロプラスチックの環境動態解明	石川県立大学 生 物資源環境学部
<p>水田で一般的に使用されている被覆肥料が国内における海洋マイクロプラスチックの発生源となっていることを定量的に評価し、現行の水稻栽培は栄養塩管理とプラスチック管理の間でトレードオフの関係が生じていることを明かにした。今後、流出抑制・回収技術を開発・普及させることで、陸と海に配慮した持続可能な農業の発展に貢献することが期待される。</p>		
さかいゆうたろう 阪井 裕太郎	統計的因果推論による漁業管理及び水産政策評価	国立大学法人東京 大学大学院農学生 命科学研究科
<p>統計的因果推論を用いて、漁業者が自主的に行う漁業管理の効果の大きさを明らかにした。水産資源を持続的に利用するためには、漁業を管理することが必須である。欧米とは異なり、我が国やアジア圏では漁業者自らが管理に参画する事例が多いが、その有効性は未解明であった。この成果はアジア型の新しい漁業管理の構築に寄与すると期待される。</p>		
受賞者	業績名	所属
しのはら 篠原 慶規	森林および竹林の水土保持機能に関する研究	国立大学法人宮崎 大学 農学部 森 林緑地環境科学科
<p>森林及び竹林の水土保持機能を多面的視点から評価し、① 針葉樹人工林の間伐は水資源を増加させる、② 竹林の拡大は水土保持機能の低下させない、③ 森林成熟は土砂災害の減少をもたらした、ことなどを明らかにした。本成果により、地域の実情に合わせた森林管理が可能となり、森林の恩恵について、国民的理解が高まることが期待される。</p>		

みなみかわ 南川 まい 舞	ゲノムと画像情報を活用した果樹の効率的な育種法の開発	国立大学法人千葉 大学国際高等研究 基幹
<p> カンキツ、リンゴ、ナシにおいて、ゲノム情報を活用した育種法（ゲノミック選抜とゲノムワイド関連解析）が有用であることを示した。芽生えの段階で将来できる果実を高精度に予測して選抜できるようになり、果樹育種の効率化が期待される。また、画像解析と機械学習の組み合わせにより育種家の感性を紐解き、カンキツの剥皮性・果実硬度に関わる果実形態を明らかにした。さらに、リンゴゲノムから花粉側の自家不和合性因子の同定に成功した。人工授粉や花粉媒介昆虫に依存しない果実生産への道を拓いた。 </p>		